

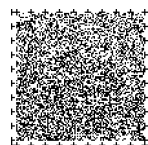
CONTENTS (主な内容)

- 特集 発達障害についてP2
- Heart&works わんりんびっく長崎2016....P4
- 市町村社協のここがイチオシP6
- キラリ☆仕事人P7
- ちいきをつ・な・ぐP8
- 宮城いきいきシニアだより 相談Q&AP9
- 復興宮城のいまP10
- INFORMATION オススメ製品のご紹介P11
- ひと・まち・こころ 県社協掲示板P12



「金太郎」

特別養護老人ホーム 仙台楽生園 制作者:利用者の皆様
お花紙を小さく丸めた物で作ってあります。季節を感じながら楽しく制作できました。



編集・発行/社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3 TEL 022-225-8476(代) FAX 022-268-5139
印刷/株式会社ソノム 奇数月15日発行 URL <http://www.miyagi-sfk.net/>



ひとまちこころ

特定非営利活動法人 子どもの村東北
理事・村長 今野 和則

すべての子どもに愛ある家庭を

○子どもの村東北

東日本大震災で親を失った子どもたちをはじめ、さまざまな理由で家族と暮らせない子どもたちを家庭的環境のもとで養育しています。村は、仙台市から借り受けた太白区茂庭台に建設し、2014年12月に開村しました。村には家族の家3棟と、これを支えるセンターハウスがあります。

家族の家では、育親(里親)が子どもたちと一緒に暮らしています。これまで震災孤児を含め長期養育の子どもたちが5人、一時あずかりの子どもたちが震災孤児を含めて延べ28人。合計で33人の子どもたちが、村で生活してきました。

○社会的養護の課題

保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護することを社会的養護と言います。我が国では、児童養護施設が大部分を担っています。

このことが、子どもの権利条約を守っていないということで、国連から3度の勧告を受けています。そこで国は、社会的養護の体制を施設養護中心から家庭的養護を増やす方向に向かっていきます。諸外国では、里親を中心とした家庭的な環境で社会的養護を進めているのです。

○宮城県家庭的養護推進計画

平成27年3月に策定された「宮城県家庭的養護推進計画」では、子どもが健全に育成されることを目指し、計画の最終年度(15年後の平成41年度)の里親等委託率の目標値を53.2%に設定しています。目標が達成された暁には、日本一の里親県となります。

子どもの村東北は、宮城県や仙台市と連携しながら、家庭養護のモデル作りをしていくとともに、「家庭的養護の推進」のための拠点のひとつとなる計画です。

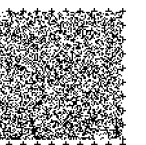


お問い合わせ
特定非営利活動法人 子どもの村東北 法人事務局
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30角川ビル402
TEL: 022-748-6936 E-mail: info@cvtohoku.org
ホームページ: <http://cvtohoku.org/>
子どもの村東北所在地:仙台市太白区茂庭台2-16-9-1

県社協掲示板

宮城いきいき学園 平成29年4月入学生募集

- ・対象=県内居住の概ね60歳以上の方
- ・場所=①仙南校 ②大崎校 ③石巻校 ④気仙沼・本吉校 ⑤登米・栗原校
- ・募集人員=各校40人
- ・学習日=年間22回(2学年制)
- ・内容=生きがいと健康づくりをめざし、地域社会に貢献できる人材として必要な内容を身につけます。
- ・募集期間=平成28年12月1日(木)~平成29年2月28日(火)必着
- ・入学金=5,000円
- ・受講料=年間20,000円
- ・申込書は、各市町村の高齢福祉担当課や生涯学習担当課及び市町村社会福祉協議会また、本会ホームページからも入手できます。
- ・通学可能であれば、どちらの学校に申し込んでも結構です。
- ・ホームページ <http://www.miyagi-sfk.net/>
- ・申し込みお問い合わせ
宮城県社会福祉協議会 いきがい健康課
☎022(225)8477



「発達障害とこころ」

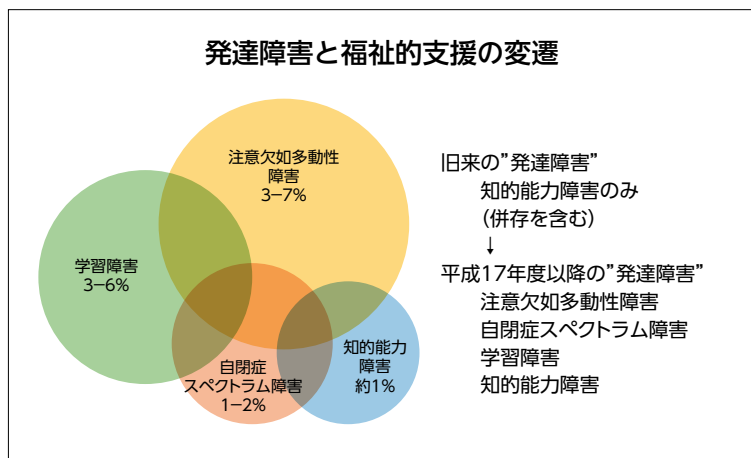
東北大学病院 小児科 奈良千恵子

（一）発達障害を取り巻く社会の変化と課題

平成17年に発達障害者支援法が施行されるまで、自閉症スペクトラム障害（自閉症・アスペルガー障害）、注意欠如多動症、学習障害などの知的障害を伴わない発達障害は、支援の対象外であり、自立に向けての対応に苦慮することが多かった。これら知的遅れを伴わない発達障害は「軽度発達障害」と呼ばれ、軽い障害と誤解されることが多かったが、平成19年には文部科学省より「軽度発達障害」という表現を使用しない通達が出され、知的障害の有無にかかわらず「発達障害」と呼ばれるようになった。医療機関を受診する発達障害児の数は年々増加し続けており、受診の申し込みをしてから初診になるまでに数カ月かかる状況が常態化している。

知的遅れを伴う旧来の発達障害児

の支援については一定のプロセスが確立しているが、知的遅れを伴わない発達障害児が社会性に大きな問題を抱えている場合には現行の知的能力障害を対象とした特別支援学校での教育の対象とはならない。その社



会適応性を高めるための療育の場をどこにするかがまだまだ確立されていないが、平成30年度によやうく高等学校に通級が導入されるなど対策が取られつつある。近年は青年期になって気づかれて相談に訪れるケースも増えてきており、就労支援も大きな課題となってきた。本年8月に約10年ぶりに改正された同法にもかかわらず、ライライフステージを通じた切れ目のない支援の体制づくりが重要となってきた。

（二）発達障害はまれな疾患ではない

文部科学省が平成24年、通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査を実施し「小・中学校の通常の学級に置いて、学習面または行動面において著しい困難を

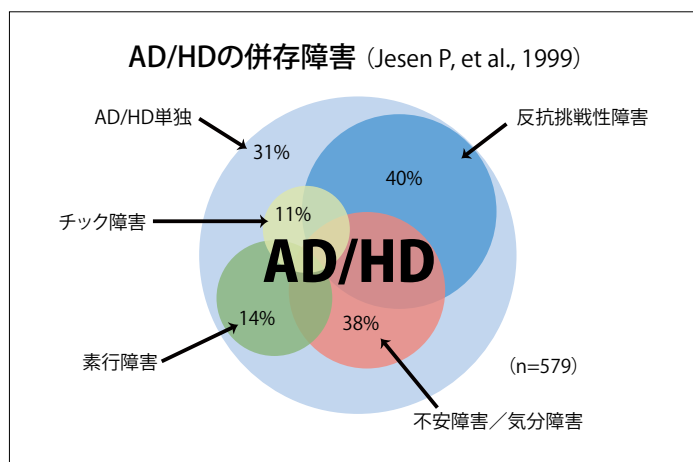
（三）早期介入の重要性・・・二次的な問題は防ぐことができる

示す児童生徒の割合」が6、5%（推定値）と報告した。つまり30人学級に1〜2人いることになる。学会報告されている有病率では自閉症スペクトラム障害がおよそ1〜2%、注意欠如多動性障害は三〜七%とされている。三〜七%というアレルギー疾患と同等の有病率であり、非常にありふれた疾患であることがわかる。さらに虐待環境にさらされている子どもたちも発達障害同様の症状を呈していることも忘れてはならない。発達障害児はその育てにくさから虐待のハイリスク児でもあり、発達障害に虐待の要素が加わっているケースも少なくない。これらのケースも含めると約1割が何らかの配慮を要する児童生徒であると考えられる。

通常学級に在籍する知的遅れを伴わない発達障害の児童も、その予後は決して楽観はできないことに、注意が必要である。対応をとななければ非常に高率に反抗挑戦性障害や気分障

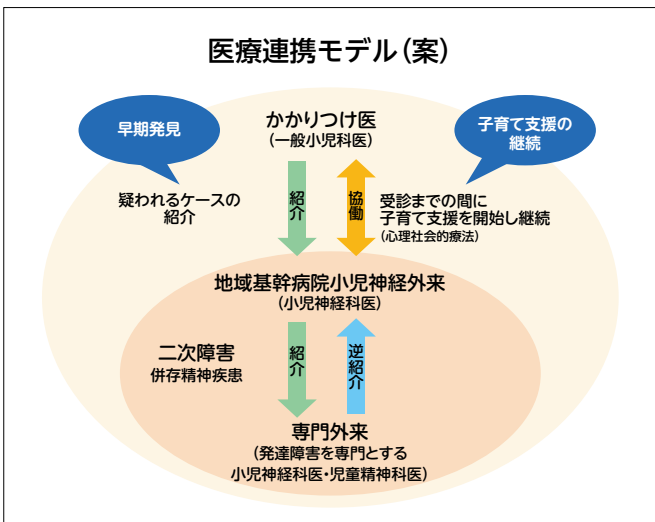
（四）発達障害の子供たちの自立に向けて

就労に向けてまず必要なのは基本



害、自己有能感の低下といった二次的な問題をきたし、非行や不登校に陥る可能性が高まる。また、容易に学習不振をきたし、一般就労が困難となるなど、早期に対策をとらなかつたために将来が変わってしまうこととさえある。発達障害は生来の特性であるが、二次的な問題は早期に介入を始めることで防ぐことができる。

的生活習慣の確立である。いつでもどこでも、どんな状況でも、相手に不快感を与えない基本的な生活習慣が身につけていることは必要条件である。さらに就労を維持するためには、
 一 自己有能感があること、二 自己耐有感があること、三 自分が他人の役につくという意識をもち、自己有能感を維持するために耐えて努力を続けられることが必要であり早期に介入することで、これらを育むことができることが明らかになっている。また、これらの就労に必要なスキルは発達障害の有無にかかわらず全ての子どもに共通である。つまり「子育ての方向性」は共通ということになる。ただ、発達障害の子どもたちの「子育て」は忍耐力を要する難しい子育てになることが多く、テクニクや保護者をサポートする支援が必要となる。



えられる。東北大学病院では発達障害の診療ができる小児神経科医の育成が急務であるとして、小児神経専門医を志す若手医師に発達外来の研修も必修とする取り組みを開始している。これにより一

（五）発達障害医療の実情と展望

相談機関や医療機関を受診するケースは年々増加してきており、受診申し込みをしてから、診察まで数カ月かかり、せつかくの早期介入の機会を逃してしまう事態となっていたため、早急な対応が望まれていた。

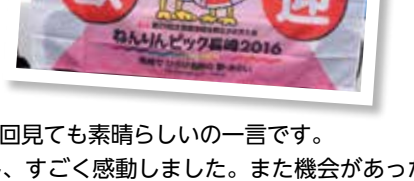
早期介入を可能にするには、
 1) かかりつけ医による早期発見と子育て支援、2) 小児神経科医による発達障害診療、3) 発達障害を専門とする小児神経科医、児童精神科医による二次診療の体制が必要と考

時、半年を超えていた大学病院の診察待機期間が、現在は2〜3カ月まで改善している。今後さらに研修を終えた医師が増えてくれば、地域基幹病院の神経外来にて発達障害診療を展開できるようになり、診察までの待機期間がさらに短縮できるとともに、より身近な地域の病院で診療を受けることが可能となる。さらに、希望する医師には研修を継続し、発達障害診療を専門とする医師を目指してもらっている。また、院内の小児科専門医への講習会および小児科専門医を志す後期研修医にも発達外来の研修を取り入れるとともに、子どもへの心の相談医を中心とする、かかりつけ医の先生方との研究会を開催するなど、かかりつけとなる小児科医が発達障害児の早期発見と子育て支援という早期介入ができる体制づくりを目指している。このような早期介入は虐待予防の対策としても重要である。こうした体制づくりは、厚労省の展開する「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修事業」の理念にも沿うものとなっている。

シニア世代の健康と福祉の祭典
『ねんりんピック』

長崎2016

レポート



「長崎でひらけ長寿の夢・みらい」をテーマに、スポーツ・文化・健康・福祉の総合的な祭典「第29回全国健康福祉祭ながさき大会」（愛称：ねんりんピック長崎2016）が、平成二十八年十月十五日から十八日までの四日間にわたり、長崎県十二市三町を舞台に開催されました。

全国から約二万人の選手・役員が集まり、宮城県からは二十種目の競技に参加し美術展へは十作品が展示されました。

ここでは、世代や地域を超えて交流の絆を広げた大会の様子を紹介いたします。

「異国情緒豊かな歴史と文化、自然の地 ああ長崎へ」

宮城県選手団は総勢148人（役員7人含）。選手役員は早朝から三便に分かれて、開会式前日の10月14日に仙台空港から長崎に向け出発しました。（剣道は五島列島での開催です。）

かわいい応援団！

～がんばらんばキッズ～

開会式の待機場所では地元の小学生の子ども達が応援横断幕を掲げてお出迎えてくれました。

子供たちは地元諫早市の小栗小学校の児童10人です。

参加都道府県並びに政令指定都市の選手を専属に応援する子供たちで、事前に宮城県の自然や文化・歴史などを学習しながらの応援です。孫世代からの応援とあって大変励みになりました。お礼として、鈴木隆一団長（本会会長）から子供たちへプレゼントを手渡しました。入場行進前のホットで和やかなひとときです。

宮城の「元気な姿を」全国に選手団が堂々の入場

総合開会式は、長崎県立総合運動公園陸上競技場で開催され、常陸宮妃殿下ご臨席の後、いよいよ選手団の入場。宮城県選手団は五番目の入場です。ソフトバレーボール主将の旗手を先頭に入場行進。メインスタンドの前ではソフトテニス選手による宮城県選手団の紹介です。皆で小旗を振ってこたえました。選手団整列後、五輪の聖火にあたる「炬火」をランナーがリレーし炬火台に点火しました。会場の雰囲気盛り上がり中、選手団代表とボランティア代表が「みらい 元気がさき宣言」を高らかに宣誓しました。

歴史・文化・夢を未来につなぐメインアトラクション

メインアトラクションでは、第一章から第四章まで長崎県の伝統と魅力を余すところなく、ダンス、マーチングバンド、郷土芸能そして夢を未来につなげるパフォーマンスで表現しました。感動の一言でした。

競技開始・いざ決戦の場へ

総合開会式が終わるといよいよ長崎市内を中心に戦いと交流の舞台に移動です。

選手達には旅の疲れが心配されましたが、鍛錬された肉体からは微塵も見られません。表情も和やかな開会式と違って変わって真剣な表情です。

「宮城県チーム上位入賞続出」

孫世代からの応援をパワーに変えた宮城県チームは、サッカー、バウンドテニスの団体種目での優勝や、ゴルフの個人部門での優勝など各競技でそれぞれの力と技量を大いに発揮し上位入賞を果たしました。

雨が降って日程が順延となった種目が有ったり、暑い中での競技となり大変だった種目もありました。

競技する時の真剣なまなざし、競技を終えた時の笑顔は何回見ても素晴らしい一言です。

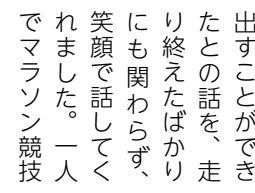
初めてねんりんピックに参加した選手は「開会式に参加し、すごく感動しました。また機会があったら参加したい」。何度か参加した選手は「毎回違う感動があります。ふれあいと交流に大いに魅力があります」と話してくれました。

宮城県選手団役員への応援記

長崎でひらいた！
宮城の長寿 夢・みらい

宮城県選手団は、20種目の競技に参加し、全国各地の選手との交流大会に参加しました。多くの種目で上位入賞を果たしましたが、交流大会を観戦してみると、どの選手を見ても試合後は「勝っても笑顔」「負けても笑顔」と、真剣勝負の中でも「笑顔」が絶えない大会になっていました。そんな笑顔あふれた大会の中で、初めてねんりんピックに参加したマラソン5キロの斉藤さんからお話を伺いました。

初めてねんりんピックに参加した斉藤さん。子供から手が離れた40歳頃から、旦那さんの影響もありマラソンを始めたそうです。はじめは、自分自身の体調管理のため。現在でも天候や体調により走る回数を調整しながらも、多い時には週に6回、5キロを走っています。ねんりんピックは機会があれば参加してみたいとは思っています。今回初めての参加となりましたが、マラソン競技は一人での参加となつたため不安がいつぱいだったそうです。しかし、そんな不安な中で参加でしたが、実際に長崎県に来てみたら、楽しくてよかったです。スタート前に応援に伺つと、「楽しみながら頑張りませう」と「笑顔」で応援に伝えてくれました。マラソン中も終始自分のペースでレースを進め、無事にゴール。ゴール後のタイムを伺つと、普段通りのタイムを出すことができました。走つた話を、走り終えたばかりにも関わらず、笑顔で話してくれました。一人でマラソン競技



感動の総合閉会式



～次は秋田大会です～

四日間わたる競技が終了し、最終日は長崎プリックホールで総合閉会式が開催されました。

全ての選手の健闘を讃えるメモリアル映像が画面いつぱいに広がりました。

そして大会旗の引継ぎです。

今回の開催県は秋田県です。なまはげ太鼓の演奏と自然豊かな秋田の風景がステージに広がり魅了されます。

閉会式の最後は、さだまさしさんのおしゃべりとライブでした。さださんの歌を聴いて、多くの方との交流により温かい長崎に触れた時を思い出しました。

秋田大会においても、多くの人々とのふれ合いにより、世代を超えた交流が芽生えるように、全国から参加される方々と交流し、絆を深めていきたいと思います。

次は「秋田に熱く参加！」

ジョブ・カード制度 経営者の皆様へ 有期実習型訓練の活用のお勧め

自社のニーズに合った人材を育成できます！

企業 求職者

企業 有能な人材を育成したい企業

求職者 ジョブ・カードでマッチング 正社員の経験が少ない非正規雇用労働者

ジョブ・カード 職業能力を証明するA4判の大きさの3種類のシート(①キャリアプランシート、②職務経歴シート、③職業能力証明シート)です。ジョブ・カードを活用したOff-JT(座学等)とOJT(実習)を効果的に組み合わせた3か月以上6か月以内の職業訓練。有能な人材を育成したい企業と正社員の経験が少ない求職者とのマッチングを促進する国の制度です。

全国各地の地域ジョブ・カード(サポート)センターでは、ジョブ・カードを活用した有期実習型訓練を実施する企業を支援しています。

終了後に支給される助成金でコスト負担を軽減！

宮城県地域ジョブ・カードセンター 千980-8414 仙台市青葉区本町2-16-12 仙台商工会議所内 TEL:022-212-4777 FAX:022-211-0720

日本商工会議所 中央ジョブ・カードセンター 各地商工会議所 地域ジョブ・カード(サポート)センター URL http://www.jc-center.jp

厚生労働省 URL http://www.mhlw.go.jp

検索

ちいきを つなぐ

みやぎボランティア総合センターからボランティア活動や防災活動、福祉教育などさまざまな情報を発信します

地域を知り、地域に学び、地域で育ち、地域に役立つ

東北福祉大学 大学指定サークル「まごのてくらぶ」

東北福祉大学（以下「大学」）では、大学の持っている「資源」と地域にある「ニーズ」とを合致させることで、地域の課題解決と大学の研究・教育という双方の相乗的な発展を目指す『地域共創』という方針のもと、大学の所在する国見地区の連合町内会と仙台市青葉区との間で「地域共創推進に関する相互支援協定」を締結。官・民・学・の三位一体で、地域共創の推進に取り組んでいます。大学指定サークル「まごのてくらぶ」（以下「まごのてくらぶ」）は、その推進役として平成22年に立ち上げられました。今号では、まごのてくらぶの活動を通して、地域と大学・住民と学生が手を取り合い、ともに地域の発展と今後地域づくりを担う若い力の育成を目指す取り組みについて、ご紹介いたします。

地域の力を後押しする

まごのてくらぶの活動は、基本的に町内会をはじめとする地域の団体・個人からの申請に基づき行われていきます。学生の若い力を活かし、高齢者宅支援や地域のイベント、児童館と連携しての子ども支援等、その内容は多岐に渡ります。しかし、申請があればどんな活動でも引き受けるわけではありません。支援が逆に地域のもつてい力を阻害してしまうことのないよう、その活動が本当に地域にとって必要であるのか、学生たちが話し合い・判定した上で活動を行います。地域の「自立支援の促進」を原則として、高齢者

宅の草むしりや雪かきのお手伝いといった、あと少し手の届かないところを支援する。まさに「孫の手」の役割を担っています。

地域を知ることが、愛着を生み出す

地域への愛着が増していった取り組みとして、学生同士の発表会「地域を知ろう」があります。数人のグループごとに、各町内会の歴史や地勢などを実際に歩き回って調べ、時には町内会長さんへインタビューし、プレゼンする。このことよって、地域の特性やそこに根差す文化を知り、地域への愛

学生の自主的な活動



▲地域見守り支援活動の様子。

地域を知ること、学生たちのアイデアからはじまった活動もあります。その代表となるのが「地域見守り支援活動」。

講義の空き時間や少人数でも取り組むことができ、継続的に、「日ごろから、地域に関わる活動がないだろうか」。そんな学生たちの思いから、この活動が誕生しました。

揃いのビブスを着て地域を回り、歩いた経路や気付いたこと、気になることを書き出していきます。気になること、は定例会等で共有・検討され、必要に応じて地域の役員等につないだり、支援活動として取り組みます。繰り返し地域に向くことで、これまで以上に地域住民や子どもたちとの顔の見える関係性が築かれています。いまでは地域の些細な異変へいち早く

着が芽生えていきます。そこから地域における新たな課題に気づくことができま

それぞれの

4年間「がつながっていく

学生の多くは大学生活の4年間だけそこに住み、または通い、大学生活を通過点として将来に向かって進んでいきます。まごのてくらぶの活動や学生たちの想いは、学生から学生、学生から地域の子どもたちへと受け継がれ、地域に根を張りつなげています。そして、卒業し国見地区を離れて行く学生たちにとっても、地域を想う心を育み、地域と密に関わってきた経験や過程は、次に進んだ先の社会や地域で活かされる貴重な財産となっています。

地域住民にとってもまた、学生たちは「地域に根差した若い力」であり、「地域における孫」のような存在でもあるといえます。ともに地域をつくる協力者として、また、巣立った先での活躍を心から願いながら、地域と大学とが一体となって、地区の発展と地域づくりの担い手となる学生の育成に取り組んでいます。

宮城いきいき

ミニシアタダより

県内にお住まいの元氣ミニシアを紹介しします！

こんなに楽しい「いきいきSUNクラブ」みんな遊びに来てね

いきいきSUNクラブのメインイベントは年に2回開催される「会員感謝イベント」です。1月は「新春の集い」、7月は「夏まつり」と称して1部はコンサート、2部は著名人をお迎えしての講演会です。

平成16年7月からスタートしこの7月の講演で25回を迎えることが出来ました。おかげ様で開催以来最高の1、325名の参加者楽しんでいただきました。

記念すべき第1回は生島ヒロシさんをお迎えし、これまでも舞の海秀平さんや中村メイコさんに講演していただきSUNクラブのメインイベントとして会員の皆様に支えられてきました。次回は来年1月を予定しており内容は現在検討中です。詳細は11月20日発行のSUNクラブニ



▲夏まつりで講演いただいた倍賞さん

また、SUNクラブには28のサークルがあり毎月2回ほど定例会を開催しております。スポーツ系、音楽系、作品を作るサークル等いろいろなサークルがありますので事務局までお気軽に電話を下さい。電話 022-223-1171



▲秋田県増田町 まんが美術館

コース No 81号でご案内いたします。定例行事で人気が高いのは日帰りバスツアーです。毎月1回以上実施しております。毎回応募者が定員を

超えております。

人気があるのは果物食べ放題や山菜採りで、温泉も人気です。最近では「釣りキチ三平のふるさとを訪れる」や「子里芋収穫体験と北上の文学に触れる旅」といった旅行が人気でした。また11月8日には初めて青森県に足を踏み入れ、三内丸山遺跡と青森県立美術館を楽しんできました。

今後も会員の皆様の要望を受けながら、楽しいバス旅行を企画していきたいので皆様方の参加をお待ちしております。

相談 Q&A

Q 福祉の仕事につきたいのですが経験がありません。また、資格を持っていないと働けないのでしょうか。

A 事業所によっては資格がない、あるいは経験がない人も募集・採用をします。また、未経験であったとしても、新任職員に対する教育や研修を実施する事業所はたくさんあり、就職後も心配せず働くことができます。

Q 福祉の仕事は年齢が高いと採用は難しいですか？

A 福祉の仕事は資格だけでははかりきれない利用者とのコミュニケーションが大切な仕事です。例えば、利用者と昔話ができたり、若い方では気づきにくい部分に対応出来たり、人生経験が豊富だからこそできる仕事や福祉にはあります。そのためどの年代の職員も福祉の現場では大切なのです。また、施設や事業所によっては職員の年齢構成に幅を持たせるために、積極的に年代の高い方を採用するところもあります。昨今、人柄や積極性を重視する事業所が増えているため、年齢が高くても採用されることはあります。

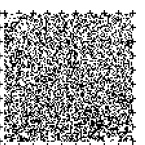
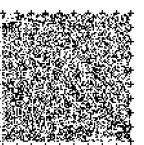
Q 求人票に「夜勤」と「宿直」とありますが、違いはなんですか。

A 「夜勤」は休憩時間以外は全て労働時間となります。夜間も常時介護が必要で対応しなければならぬ方が利用する入所型の事業所などで採用している勤務形態です。

一方、「宿直」は日中の勤務が終了後に交代で職員が事業所内の宿直室で待機します。宿直は原則として業務ではないため、仮眠（休憩）をとることができ必要な場合のみ対応します。

◎福祉のお仕事出張相談開催
実施場所 県内ハローワーク9か所
(気仙沼・築館・迫・古川・大和・石巻・塩釜・大河原・白石)
日程を確認のうえご参加ください。

◎宮城県福祉人材センター
○利用時間 午前9時～午後5時
(月曜～金曜 第3土曜日)
○休日 土曜・日曜・祝祭日・年末年始
○お問い合わせ T980-0014
仙台市青葉区本町3丁目7-4
宮城県社会福祉会館1階
TEL 022-2262-1977
FAX 022-2261-9555



復興 宮城の いま

誰もが気軽に集える場づくり
「コミュニケーション麻雀の特性をいかして
多くの方が楽しめるサロンを」

岩沼市社会福祉協議会

「バスを乗り継いで、来たよー」と、玉浦公民館に元気な声が響きます。この日は月に1度の「コミュニケーション麻雀のあつまり」(以下、「コミュニケーションのあつまり」)の日。岩沼市社協主催のサロンとして平成25年に始まり、これまで一か所での開催でしたが、今年度は、市内各所を会場に行っています。

参加者は70代の方が多く、一人暮らしの方もおられます。参加者は、「ここで知り合いになって、今ではお茶のみ友達になった」という人や、「一人でテレビを見ていてもつまらない。でもここに来たら、みんなで笑い合えるからいいよね」など、みなさん屈託なくお話しくださいました。

「コミュニケーション麻雀のあつまりをサポートしてくれるのは、2年前にコミュニケーション麻雀のあつまりの常連の参加者で結成されたボランティアグループ「リーチの会」のみなさんです。リーチの会では、月に1回社協で行うコミュニケーション麻雀のあつまりのサポートの他に、町内会等からの依頼で、コミュニケーション麻雀の遊び方を教える出



▲「リーチ!」「ロン!」
2人1組のチーム戦なので、はじめての方も楽しくゲームに参加できます。

張教室も行っています。今年の春からは、「もつとコミュニケーション麻雀をした」との声に呼んで、月に1回、会主催の「コミュニケーション麻雀交流会(サロン)」も開催しています。さらに、毎月定例会を行い、サロンで出た課題等について、じっくりと話し合う時間も設けています。

このように現在は盛んになったコミュニケーション麻雀ですが、「コミュニケーション麻雀のあつまり」が始めた頃は、参加者が少なく、男性が参加しても、ルールが簡素化されているため、「イメージしていた麻雀と違う」と、サロンの途中で帰ってしまう人が続出しました。それでも、少しずつコミュニケーション麻雀の趣旨を理解してくれる参加者が増え、麻雀ベテラン者は初心者に教えることの楽しさを、そして初心者も勝つことの面白さをそれぞれ味わい、今では男性の参加者も随分と増えました。

社協がコミュニケーション麻雀のあつまりを開催し、リーチの会立上げから現在までアドバイザーとして関わってきた中で感じたことは、男性は「お茶のみ」だけではサロンには参加しません。コミュニケーション麻雀のようなゲーム性のあるものが好まれるようです。また、比較的大らかな



▲「どの手でいくかな」リーチの会の皆さんも見守ります。

に勝ち負けを受け止める女性参加者に比べ、ルールの細部にも非常にこだわりの持つのが男性参加者の特徴です。そのためリーチの会の定例会では、ルールの解釈について数か月にわたり、議論することもありました。

最近、参加者から「外出するきっかけを意識して作っているが、麻雀は気軽に参加できていい」というお話を聞くことがあります。また、「コミュニケーション麻雀をきっかけに、社協を知った」という声もいただきます。コミュニケーション麻雀を、誰もが気軽に集える場作りのツールの一つとして、これからもみなさんと一緒に盛り上がっていきたいと思います。(寄稿)



▲近隣市町のコミュニケーション麻雀サロン運営者が集まり、交流会も開催されました。

情報掲示板

INFORMATION

温かい真心をありがとうございます

下記の方々から、本会に寄付金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。(平成28年10月18日現在)
平成28年9月14日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために…………… 50,383円
平成28年10月14日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために…………… 51,853円

平成28年度福祉施策等に対する 要望書を提出

本会では宮城県内の福祉関係団体から要望を取りまとめ、平成28年9月15日に宮城県保健福祉部社会福祉課に対し、国及び宮城県に対する要望書を提出しました。要望事項については、回答が届き次第、ホームページなどで報告します。



オススメ 製品の 紹介

NPO法人みやぎセルフ協働受注センターでは、働く障害者の方々に応援しています!
URL <http://www.miyagi-selp.org>
f <http://www.facebook.com/miyagiselp>

県内の障害者就労支援事業所で作るオススメの製品を紹介します。



青森ヒバ製品(入浴雑貨、クッション)
青森ヒバを使用した当製品は、「消臭効果」が科学的に実証された、塗料を使用しない安心の製品として大好評いただいております。入浴雑貨は「ららら♪オーケストラ」を新たに加えた15種類ほどを作製し、ヒバチップを使用したクッションも色々大きさ様々に作製しておりますので、至福のひとつにヒバの香りをお楽しみください。

製作者より

一つ一つを電動糸鋸で切り出し、丁寧に磨くため、同じシリーズでも全く同じ仕上がりものはありません。実用品でありながら、そのかわいらしさと天然木材そのままという安心を皆様に知っていただけたら嬉しいです。

【事業所紹介】商品のお買い求め、ご相談は下記にて承っております。

工房 けやき 〒981-1107 宮城県仙台市太白区東中田2丁目15-1
TEL/022-242-8090 FAX/022-242-8091 keyaki95@deluxe.ocn.ne.jp
ホームページ: <http://www.sendaishi-ikuseikai.or.jp/>
最寄りの交通機関:
JR長町駅西口より仙台市営バスのりば10系統「四郎丸小経由四郎丸行き」乗車→「東中田2丁目」下車
25系統「中央公園袋原中経由四郎丸行き」乗車→「中法地公園前」下車

宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度 宮城県地域福祉総合補償制度をご利用下さい

- ポイント1** 社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。
- ポイント2** 地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。
- ポイント3** 団体制度のため、有利な団体割引が適用されています。(一部適用外)

ご不明の点はお問合せください!



お問合せ 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 TEL022-225-8476
三井住友海上火災保険株式会社 TEL022-221-3171
株式会社オンワード・マエノ TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。